

指導教員によるコメント

深澤南土実さんの海外派遣プログラムにおける調査の目的は、①シネマテーク・ド・ラ・ダンスにおいてローラン・プティ《若者と死》の初演映像とプティの初期の作品映像の視聴、②パリ・オペラ座附属図書館における資料調査、③オペラ座での《若者と死》の観劇であった。このたびの調査においてこれら3つの目的を全て達成できたことは大きな成果であるが、それ以上に素晴らしいことは、《若者と死》の初演ダンサーであるジャン・バビレ氏にインタビューできたことである。これは、直接パリに赴き《若者と死》に関する資料収集することを通して得られた幸運であろう。そして、これまでの博士論文の構想には入れられていなかった《若者と死》を生み出す母体となったシャンゼリゼ・バレエ団に関して多くの新聞・雑誌の資料を収集することができ、その資料をもとに戦後のフランスにおける舞踊の動向や社会的背景を導き出したいと考えるに至っている。今後の博士論文の進展を期待している。

猪崎 弥生（お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科 教授）